

令和8年度福岡県公立古賀竟成館高等学校評価書
学校運営計画

学 校 運 営 計 画				評価（3月）		
教 育 指 導 基 本 方 針		(1) 生徒自ら道を切り拓ける力を育成する。 (2) 地域社会の一員としての自覚と責任を持つ生徒を育成する。 (3) 自ら学び、他者と協働しながら課題を解決できる力を育成する。 (4) 将来、地域や社会を支える担い手となる人材を育成する。				
昨年度の成果と課題		年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標			
【成果】 (1) クロームブックの環境が整備され、全校生徒に配置することとなった。生徒同士が情報を共有し、他者を評価することに活用場面を広げ、授業中の活用する機会を増やし、意欲向上につなげることができた。 (2) 様々な地域連携活動により地域に貢献する生徒が増加した。学校の魅力化推進、広報活動の充実、入学者選抜改革により推薦入学者選抜による志願者が増加した。 (3) いじめ不登校対策委員会によりいじめ防止対策や長期欠席生徒に対して組織的に対応することができた。 (4) 高等学校DX加速化推進事業が採択され、今年度3年目となった。総合的な探究の時間と組み合わせて、生徒同士で協力しながら活動を進めたり他者と協働して物事へ取り組み方をより一層育成することができた。 【課題】 (1) 授業でのICTの活用を積極的に推進し、自教科だけでなく、他教科の活用方法についても情報共有する。 (2) 次年度の入学者選抜においても改革を進め、志願者増加に繋げる。 (3) 高等学校DX加速化推進事業の完成年度として、デジタル人材育成プログラムへ発展させていく。 (4) 生徒の希望進路の実現を図るために、就職を含め年内に実施される総合型・学校推薦型上級学校入試と一般入試までを見据えた計画的な進路指導を構築する。 (5) 部活動の活性化と働き方改革の観点から、計画的な部活動指導体制の構築に努める。		(1) 何事にも主体的に挑戦し続ける生徒の支援	・生徒が主体的に企画・運営を行う学校行事をとおして「望ましい在り方・生き方」を自律的に考え、自ら変えていこうとする行動や態度を育成する。 ・3年間を見通した体系的なキャリア教育を実施し、多様な進路実現につなげる。 ・教育課程の改善をとおして新学習指導要領に基づいた授業改善を進める。 ・ICTを効果的に活用し、個別最適な学びを推進し、地域自治体・企業・大学等と連携した教育活動や地域課題解決型学習を展開する。			
		(2) 五箇条教育の徹底と学校文化の醸成	・五箇条教育の実践を通して規範意識を育成し、安全で安心できる学校づくりを推進する。また、互いを尊重する温かな人間関係を築く。 ・創立70周年に向けて、愛校心と自尊心を育成するために、「竟成館五箇条」に沿った取組を、生徒会等に自ら企画立案させ、学校全体で取り組んでいく。			
		(3) 学校広報の充実による地域との信頼関係の構築	・学校HPの刷新をはかり、SNSツールを活用して、本校の魅力を広く発信する戦略的な広報活動を展開する。 ・古賀市・福津市・新宮町との連携、および地域の小中学校との連携を通じて、生徒に地域の課題に目を向けさせ、探究的・自律的な学習の充実を図る。 ・ボランティア活動やインターンシップを推進し、地域産業や社会課題を学ぶ機会を充実させる。			
		(4) 教職員の協働体制の強化	・部内と分掌間の連携の効率化を図り、校務分掌における業務負担の偏りを軽減するとともに、協働的で効率的な組織運営を行う。 ・「校務支援システム」の効果的な運用や業務の精選・見直しを積極的に推進し、業務の無駄を省き、必要な業務に重点的に取り組むことができるようにする。			
部	具体的目標	具体的方策		評価		本年度の成果と次年度に向けての課題
教 務 部	学習指導の充実による基礎学力の定着と学習意欲の向上	各教科において基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る授業を推進するとともに、生徒の実態に応じた指導方法の工夫・改善を行う。 家庭学習の定着を図る取組を推進するとともに、課題提示や振り返り活動等を通して、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。				
	ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進	1人一台端末やデジタル教材等を活用し、生徒の理解度や進度に応じた指導を行うことで、個別最適な学びの実現を図る。 校内研修や授業実践の共有を通してICT活用の指導力向上を図り、効果的なICT活用による授業改善を推進する。				
	教務運営の円滑化と教職員の協働による組織的な教育活動の推進	教育課程の適切な管理を行い、時間割編成、成績処理、各種教務業務を計画的かつ円滑に運営する。 教科・学年・分掌間の連携を強化し、教職員が協働して教育活動を推進する体制づくりを進める。				
	中学生から選ばれ続ける学校であるための情報発信と行事の充実	HPやSNS等の扱い方の改善を図り、積極的な情報の発信を行う。 本校の魅力を最大限にアピールできるよう広報行事や広報活動の内容を見直す。				
生 徒	自主的・自律的な規範意識の育成及び良好な人間関係の構築	竟成館生としての自覚を芽生えさせるため、すべての教育活動を通して日頃からの注意喚起やマナー・ルールを守ることの徹底を図っていきたい。 生徒との信頼関係や距離感を大切にし、目的をきちんと伝え、納得感を持たせる積極的な生徒指導を行っていく。 ネット上を介しての危機回避能力を身につけるために日頃からの注意喚起を行い、トラブルを起こさない・巻き込まれないを伝え続けていく。				
	生徒の愛校心と自尊心の育成	生徒会からの発信をより強めて、竟成館五箇条教育の推進を進めていく。 部活動の活性化が本校の教育活動の広報に有効であるため、強化指定部を中心とする生徒の模範となる生徒の育成、行事への参画を促していく。				
	生徒が主体となり企画・運営を行う学校行事の実施	生徒会を中心に生徒が主体となる学校行事の企画・運営を行うために、生徒会活動をより一層活性化する仕組みを作る。 鶴翔祭、体育祭、予餞会等の行事を通して、新しいことへの挑戦を促し失敗を恐れず挑戦する機会を多く設定する。				
	自らの健康に関する意識を高めさせ、安心して学校生活を送ることができる	生徒の心身の健康状態を的確に把握し、必要に応じて家庭やSSW・SC、専門機関と連携して支援する。 防災避難訓練等と熱中症講演会をそれぞれの専門家を招き実施する毎年1年生を対象としたAED講演会を実施する。				
	整った学習環境の整備と維持ができる生徒の育成	職員の高い美化意識のもと、積極的な清掃指導を行うことで学習環境を整える。特に多数の来客がある際には、トイレや廊下をはじめ、使用施設などの清掃は念入りに行う。 美化委員会と連携しながら清掃状況の確認を行い、清掃用具の整備、施設整備の破損等については迅速に対処する。 施設設備を使用する際は、清掃している人の立場に立った上での清潔な環境維持への協力を呼びかける。				
	各種専門委員会を活性化させる生徒会とリンクした委員会活動	保健委員会活動の充実を図り、健康に関心を持てるような取り組みを発展させる。 美化委員会の定例会にて、校内美化の状況を把握し、具体的取り組みを考え実施する。				
進 路	自己管理能力を向上させ、自身の進路実現に向けた取り組みを計画し、実施する姿勢を育成する。	手帳やClassiの学習記録の入力を通じて、生活習慣・学習習慣・学習方法の振り返りと改善を促す。 進路ガイダンスや講演会を通じて、進路に関する様々な選択肢を理解し自身の進路を決定させる。				
	進路実現に必要な学力の定着と向上を図ることができる手立てを考え、実施する。	各種模試の結果や入試問題の分析を行い、生徒に寄り添った指導を行う。 小論文指導を充実させ、論理的思考力・判断力・表現力を向上させる。				
	上級学校や公務員、就職に関する情報を収集し、職員への共有や生徒への発信を積極的に行う。	入試や就職に関する情報を、教員へ回覧したり、生徒へ周知したりする。 大学のパンフレットや赤本を充実させ、生徒が進路資料室を積極的に活用できるようにする。				
	探究活動の充実を図り、幅広い教養の習得を目指す。	探究活動のプレゼンテーションや班での研究活動の機会を設定し、他者と協働しながら課題解決に取り組ませる。 情報収集・整理・分析の活動を段階的に取り入れ、課題の発見・解決能力の向上を図る。				
総 務	行事・式典や各種手続きの円滑な運営と、正確で安心感のある業務体制の確立	業務マニュアルや年間スケジュールの整備により、作業の標準化と効率化を図る。 準備工程の明確化と進捗管理を徹底し、計画的な遂行に努める。 関係職員との情報共有を密に連携し、組織的な対応力を向上させる。				
	外部機関および校内外との連携の強化と、学校行事や教育活動への理解と協力体制の構築	PTA・同窓会との情報共有に努め、諸行事の円滑な運営に向けた支援体制を整備する。 奨学金案内や食堂運営の調整を適切に行い、生徒が安心・安全で充実した学校生活を送ることができるようにする。 朝読書や図書館活動の充実を通して、生徒の主体的な学びを促す環境を整える。				
	授業改善を軸に据えた、協働的な校内研修体制の確立	研究授業及び授業研究会を計画的に実施し、授業改善の視点を明確化した組織的な研修を推進する。 授業公開や教育実習を通じた実践の共有を図るとともに、研究成果を紀要として集約・発信する。 ICTの戦略的活用と研修資料のデジタル化を推進し、効率的かつ創造的な協働研修体制を構築する。				
学 年	(1学年) 基本的な生活習慣の確立と確かな学力の向上	挨拶、身だしなみ、清掃に対して高い意識を持ち、自らを律し、物事に懸命に取り組めるよう、生徒の様相観察や声掛けを意識的に行い学年での情報共有に努める。 授業を中心に据えた学習習慣を身に付けさせ、見通しを立てて計画的に学習する習慣をつけるために学習記録を活用させる。				
	(1学年) 進路意識および社会性の向上	生徒自身の可能性や強み、適性に気付かせ進路実現に必要な情報を収集活用できるように、総合的な探究の時間を年間を通して計画的に実施する。 他者への共感力、受容力、自己肯定感、コミュニケーション能力の育成向上が実感できるよう、学校行事や委員会活動で活動の場を多く設ける。				
	(2学年) 基本的な生活習慣の確立学力の向上	挨拶の励行、自己管理、日々の体調管理を心掛け、出席皆勤賞100名以上を目指す。 授業規律の確立、学習習慣の定着を図り、目標達成に必要な学習時間帯について具体的に把握させる。				
	(2学年) 社会性の向上と自己管理能力の育成	コミュニケーション能力を育成し、他者に対する思いやりや感謝の気持ちを持たせ、集団内での自分の役割を実行させる。 生徒一人ひとりに目標を設定させ、学校生活に対する意欲を向上させる。自分の生活を自己評価して、次の行動に反映させる。				
	(3学年) 進路実現	目標とする進路先に必要な学力等の再確認をさせ、その達成のための計画を立てさせる。 計画したものを実施するために、日々の学習記録、定期的な模擬試験での到達度確認を徹底させる。				
	(3学年) リーダーシップの発揮	鶴翔祭、体育祭等におけるリーダー的役割を経験させる。学年や学級での委員会活動等により、それぞれの個性を発揮させる。 日常の様々な場面において役割を持たせ、自主的に活動させる。				
総合 ビズ 入科	進路指導の充実	総合型入試、推薦入試の指導体制を確立して成果を上げる。 商業科推薦枠を有効活用するために、情報を提供し、国語、英語、簿記の実力養成を図る。				
	説明会の企画	中学校への出前授業や、中学生の高校訪問での授業体験を積極的に行う。 学科の特長や資格取得、進路状況の説明を行いPR活動に繋げる。				